



洋書輸入協会会報

Vol. 29 No. 7 (通巻338号) 1995年7月

ABA コンベンション 1995

“Business is Great, but……”

ABA (The ABA Convention and Trade Exhibit) は、ご存じの通り、American Booksellers Association 「米国書店連盟」の「年次総会」と「見本市」のことで、毎年一回開催され、関係者にとっては、フランクフルト、ロンドン、或いはポーロニャ等の国際図書展同様、欠かすことの出来ない大事な催ものの一つです。

今年の ABA は、合衆国第二の都市シカゴは、ミシガン湖畔の緑美しい Grant Park に隣接するコンベンション・ホール McCormick Place Complex (北館) に於いて、6月3日から5日までの3日間の日程で開催されました。昨年 (Los Angeles) より期間が半日短縮されたためか、或いはまた、アメリカ景気の盛り返しを反映してか、期間中の会場内の混雑は大変なもので、通路には人があふれ、お目当てのブースへ行くのにも一苦労と言った感じの盛況振りでした。

事実、PW 誌の報じるところに依れば、ビジネスの方も各社とも大変好調だったようです。が、折りから同時に開催された (Grant park で) “Chicago Blues Festival” や、突然の雨で交通が渋滞し、利用客の足が奪われたことから、会場内外の交通の便の悪さ、休憩所のスペースの不足、レストランの準備の悪さ、案内板の不十分さ等、もっぱら、施設や運営上の手際の悪さが「問題点」として多くの参会者から指摘され、責任者はどうやら次回開催までに改善を強く約束させられた模様です。

元々総会の最終日に、仕入れ担当者が展示された本を見て歩くことから始まった (総会は1900年に、見本市は1947年に始まった) と言われるこの小さな展示会も、今では展示面積 355,000 sqf (約9,970坪)、出店社数2,300、入場者数45,000人を記録する大図書展へと成長し、地元のアメリカ国内、カナダはもとより、遠くヨーロッパ、アメリカ、アジアからも多くの参加者が増えています。日本からも取次、印刷、版權、洋書輸入、洋書店、出版文化国際交流会、など本社から、或いは又、米国の出先から関係者が多数参加され、何人かの方にお会いしました。

さて、「今年の話題は」と言いますと、会場の混雑もその一つでしたが、混雑の一因となったとも言われるヒラリー、クリントン大統領夫人と、共和党下院議長ギングリッチ氏がそれぞれ自著の宣伝のため? に朝食会や昼食会のパネリストとして招かれ、顔を出したことでしょうか。終日アポントの消化とカタログ集めに奔走していた私には全く縁がないものと思っておりましたが、その影響で帰りのタクシー、バス乗り場で、長蛇の列の中で身動きとれずに二時間以上も待たされるはめになりました。

いわゆる、「ビッグ・ブック」と言われるような「超話題の本」は見られなかった様ですが、ABA のオフィシャル ガイドブックの表紙、ポスター、その他の印刷物を飾った Grant Wood の一枚の絵 “Amerian Gothe”

目次

ABA コンベンション 1995	1	東京税関東京外郵便出張所	3	洋書輸入協会史	5
理事会報告	2	文化厚生委員会だより	3	東京の坂と橋と文明開化	7
海外ニュース	2	うちの会社	4	広告	8

(1930)は私にとって大変印象深いものでした。

会場を回ってみて困ったことは、出展社のブースに社名が出ていないため、仲々目的のブースを捜し出せないことでした。(オフィシャルガイドブックでブースの位置を確認してから行動と言うことになります。)又、展示の仕方が「出版グループ」ごとのため、グループの「旗艦」出版社名とその傘下の「インプリント」との関係が分からないと探すのに苦労することでした。グループごとに趣向を凝らしたディスプレイや特注の絨毯の色(グループごとで異なる)を見るにつけ、さながら、戦国時代の「陣取り合戦」のようで、その時々出版社グ

理事会報告

6月23日(金)

(一) 4月および5月分収支報告

5月17日(水)及び6月16日(金)開催の総務委員会で審議の4月&5月の収支について事務局長の報告を承認した。

(二) 総会報告書

1995年定時総会報告書の纏めが副総務委員長より提出され、一部訂正のうえ全会員宛送付することとした。

(三) 退会

予てから退会希望のあった三品書店より退会届が提出され、5月末日の退会を承認した。

海外ニュース

インターネットと出版業 World Wide Web の影響

つい最近までは出版業界にインターネットが及ぼした最大の影響といえば、書店のコンピュータ書の棚を埋め尽くすおびただしい数の“インターネット関連書”であって、ごく一部の出版社を除いてインターネットの利用そのものではなかった。ところが今、出版社や書店の多くがビジネスにおけるインターネットの積極的な利用に関心を持ち始めている。

インターネットに新たな関心が集まる引き金となったのは、World Wide Web(WWW)の急速な普及と、

ループの「勢力図」を見る思いがしました。

ともかく、短期間とは言え一堂の下に、今流行のマルチメディアから子供の絵本、大学出版物、美術、旅行、リメーダー、サイドラインまで広範に、要領良く、現物に触れながら、最新情報を入手できる機会は他にありません。これからも多にABAを活用したいものと思います。

日本出版貿易株式会社
洋書部洋書仕入課
大 桃 章 男

Mosaic や Net Scape といった新しいグラフィックインターフェイスの登場である。

Publishers Weekly の調査によると、現在米国の出版社では229社がインターネット上で商品をあつかっている。出版界の専門的なネットワークであるABAのBookWebや読者に出版物案内をするInternet Book Information Center、出版社のタイトルバンクと書店のオーダーシステムを結ぶPIMA等々、新しいサービスも登場している。

出版社にとってもっとも重要なインターネットの側面は、読者と直接の関わりが持てる点である。出版されたタイトルについて、あるいは今後の出版計画について関心のある人々のサークルがインターネット上に作られるということは、これまで存在したいかなるマーケティング機関より頼りになることと、関係者は見ている。

また、WWWは電子媒体の出版物を販売するのにも有効な方法であり、さらに専門出版社の中にはIEEEのようにインターネットを利用して冊子体の出版物をオーダーした顧客に対して、本の価格と送料のS5を支払えば即座にその本の中身にオンラインでアクセスできるというサービスを始めているところもある。IEEEのように、国外に7万人もの会員を有しているところでは、電子媒体の出版物の使い易さという利点のほかに、本が届くまで待たなくても良いというメリットもある。

今後の課題は、アクセスするのにかかるスピードを如何に速くするかという技術的な課題と、年々数の増えつづけるWebの情報ネットの中で利用者に必要な情報をとらえ易い環境を作るかという点である。

—IW '95年5月29日号より抜粋—

東京税関東京外郵出張所の人事異動について

平成7年7月1日付にて、東京税関東京外郵出張所の人事異動が行われました。現在、所長以下担当係官及び事務分担は以下の通りになっています。 (平成7年7月1日現在)

	総務課	課長 田中 克	出張所の事務の総合的企画及び運営
	輸出通関部門	統括審査官 長谷川 恒憲	輸出郵便物の通関事務 戻し税または還付金関係事務 外為法関係事務、証明書交付事務
	輸入総括部門	統括審査官 中村 正敏	輸入通関事務の調整、評価関係事務 収納、還付金関係事務
	特別審査官	鈴木 秀彦	無体財産権及びワシントン条約関係事務 特恵管理及び税表分類 外為法関係事務
	受理審査部門	統括審査官 山田 耕作	輸入郵便物の受付事務 保税運送の承認、証明書交付事務 ブック通関事務
	輸入通関第1部門	統括審査官 花沢 茂	輸入郵便物の通関事務
所長 芳賀勝志 次長 稲垣秀夫	輸入通関第2部門	統括審査官 戸祭 勝雄	同 上
	輸入通関第3部門	統括審査官 小暮 史雄	同 上
	輸入通関第4部門	統括審査官 窪 忠和	同 上
	輸入通関第5部門	統括審査官 小林 修平	同 上
	輸入通関第6部門	統括審査官 坂本 佑	同 上
	輸入通関第7部門	統括審査官 斉藤 賢治	同上
	輸入通関第8部門	統括審査官 近藤 国夫	同上
	輸入通関第9部門	統括審査官 雲井 巖	同上
	税関相談官	島村 義晴 信川 信義 赤羽 祥行	通関相談、苦情処理 通関指導と税関業務の広報関連事務

文化厚生委員会だより

釣り同好会報告 (鱈釣り)

1995. 6. 24

梅雨の合間をぬって6月24日(土)、シロギス釣り大会が行われた。気掛りな天気予報は雨・曇・雨と報じていた。定刻には参加者15名全員が集合、初参加の鶴(東亜ブックス)、酒井(トッパン)両氏も加わり予定通り出船した。

航程1時間余のつり場、大貫沖に到着のころは青空もどき始め波もなく素晴らしいつり日和となっていた。

船長の合図でいっせいに竿を出す。程なく良型のキスが釣れ出しあちらこちらより声があがり始めた。

外道のメゴチ(天ぶらだねとして最高)も多くフグカレイなども釣れ又、広瀬さん(大洋交易)には目の下?…センチの「タイ」がかかったり賑やかな船中となる。日中、青空はいっそう広がり居眠りも出そうな静かでベタナギの海上となって魚も昼寝か、釣果はいまひとつで

あった。船長も皆のつり上げの様子に首をかしげながら数回つり場の移動をしてくれたが状態は一向に変わらない。メゴチは良くつれる。全員すっかり日焼けして周囲のつり船も引きあげ始めた2時半頃納竿となった。

各人、重い？クーラーを肩に船を降り棧橋で記念写真を撮ってから成績発表（下記）となる。今回のキス釣り大会優勝の広瀬さんの軽妙なスピーチのあと4時30分散会となる。次回の釣り大会は10月中旬に観音崎の走水沖であじ釣りを予定。多分、食味充分な釣りみやげが期待できると思われる。（太陽図書貿易 小松記）



成績表

優勝	広瀬敏昭（大洋交易）	20匹
2位	金野亨（南江堂）	19匹
3位	若松吉三（南江堂）	13匹
4位	中村啓司（大洋交易）	12匹

武田全弘氏、洋販を退社さる

協会の文化厚生委員のかなめとして長年にわたり尽力された武田氏がこのたび洋販を退社され、悠悠自適の生活にはいられるとのこと。麻雀・囲碁・釣りと、一時は三冠王を占められた（ちなみに、あとゴルフとテニスを加えたものが現在の文厚委の同好会のすべて

であるが、この五冠をすべて制しグランドスラムを達成した人はまだない）こともある。

お世話になった会員すべてから、心から感謝の思いを捧げたい。

うちの会社

（株）教文館

当社の発祥は1885年になりますので今年で110年となります。

プロテスタント・キリスト教のメソジスト派の宣教師が文書伝導を目的として銀座四丁目の地に Publishing House を開設したのが始まりです。

現在の教文館ビルは1933年設計者レイモンド、施工清水組（現在の清水建設㈱）により完成されました。

銀座の町では、いまでは古いビルのひとつになりました。

以来今日までキリスト教書を中心にして洋書を輸入販売して来ました。

日本のキリスト教の人口は全人口の1パーセントぐらい（100万人位）といわれていますが、キリスト教界のお役に立てるべく仕事をしております。

明治時代の文明開化によるヨーロッパ文化の移入、

1945年、敗戦に伴うアメリカ占領軍の持ち込んだアメリカ文化、欧米の精神の源流をなすキリスト教の研究は大学、研究者にとって魅力的なテーマでした。

そのお役に少しでも“うちの会社”がたつことができた、できたはず（？）とへんな納得をしております。

又、キリスト教の周辺世界も取り上げまして、ギリシア・ラテンの西洋古典学、古代・中世哲学、中近東・オリエント学、ユダヤ教の関連書籍も扱っております。

ごく限られた分野を専門領域にし、お店もかまえておりますので、当今の急激な円高に伴う洋書販売価格の変動には、ただただ驚いております。

驚いてばかりでは商売になりませんので、無い知恵を絞りまして、この激動を切り抜ける算段で頭のいっばいの“うちの会社”です。

洋書輸入協会史 (97)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

112 昭和39(1964)年度(s39.4月～s40.3月)の規約改正、理事改選、新入会員、退会者、業界消息など

112.1 規約改正 なし

112.2 定時総会と理事改選

昭和39(1964)年5月30日付、JBIA No. 187の定時総会報告では、5月28日日本出版クラブにおいて開催された総会席上における理事改選の結果を、次のように伝えている。

記

昭和39年度関西支部長に選出された旭屋書店を紹介、同時に本部理事に選任。

関西支部長を除く理事8名の選任投票を実施し、直ちに開票の結果総数52票、そのうち無効2票を除き、下記の会員が当選。

丸善株式会社	43票
株式会社紀伊國屋書店	41
日本出版貿易株式会社	36
海外出版貿易株式会社	28
日本洋書販売配給株式会社	27
福本書院	22
株式会社国際書房	17
株式会社ユー・エス・エシアティック・カンパニー	17 (以上)

理事長は、6月10日の理事会において改選理事互選の上、丸善に決定した。

なお、従来の理事・関西支部長は、株式会社海外書籍貿易商会(代表者 福田悦夫氏)であった。

本部理事は、従来の株式会社教文館(代表者 松野左武郎氏、洋書輸入協会担当、西村勇次郎氏)が株式会社国際書房(代表者 服部正喬氏)と交代した。なお理事会は、後日教文館と海外書籍貿易商会の永年の御苦勞を謝して記念品を贈呈している。

112.3 新入会員

(1) 株式会社 金星堂 東京都千代田区神田神保町3-21

代表者 福岡益雄 資本金 920万円 従業員15名
創立 大正7年9月

事業の種類 大学用英語教科出版販売及び英米出版図書輸入販売

同社の入会は、昭和39(1964)年4月30日付、JBIA No. 182によって会員に周知されている。

同社は出版業界の老舗であり、代表者の福岡氏は、日本書籍協会の監事や、学習書協会の理事長を勤めている有名人である。

(2) 日本書籍貿易株式会社 大阪市北区真砂町2

代表者 玉木 新 資本金 100万円 従業員15名
創立 昭和23年8月

事業の種類 自由諸国原産の出版物(人文・社会関係)直輸入販売、及び附随的業務一切を含む。

同社の入会は、昭和39(1964)年5月28日の定時総会の席上で紹介された。

(3) 伸興通商株式会社 東京都港区青山南町5-33

代表者 長戸亮介 資本金 100万円 従業員4名
創立 昭和38年2月

事業の種類 外国書籍・雑誌輸入販売及び一般輸出入

同社の入会は、昭和39(1964)年11月26日付、JBIA No. 195によって会員に周知されている。

(4) 内山書店 東京都千代田区神田一ツ橋2-3

代表者 内山嘉吉 資本金 500万円 従業員 10名
創立 昭和10年

事業の種類 中華人民共和国との書籍の貿易

同社の入会は、昭和40(1965)年3月10日の協会懇談会の席上で会員に紹介されている。

112.4 退会者 ノバ商事株式会社(日時不明、昭和38年度後半から昭和39年度初めにかけた時期のいずれか)の1社。

112.5 会員数

昭和38(1963)年年度末(昭和39年3月31日)現在の会員数は64社、これに対し退会者1社、新入会員4社のため、昭和39(1964)年年度末(昭和40年3月31日)現在の会員数は67社に増加している。

112.6 新住所変更

(1) 株式会社チャールズ・イー・タトル商会は、東京都文京区水道1-2-6を新住所とすると共に、大阪支社も大阪市西区江戸堀5-155 山越ビル内を新住所とする

旨、昭和39（1964）年9月16日付、JBIA No. 191に掲載された。

(2) 三品書店新住所 品川区大井2-19-7

(3) 北尾書店新社東京営業所新住所 新宿区市ヶ谷町1-6 柳沢ビル

以上2件昭和39（1964）年11月26日付、JBIA No. 195に掲載。

(4) E. メクレンブルグ商会 地下鉄日比谷駅の開通に伴い、建設中の日比谷朝日生命館アーケードが完成し、その一角を占めることになった旨の挨拶状が、昭和40（1965）年1月付で配付された。新住所 東京都千代田区有楽町1-2 日比谷朝日生命館地階

112.7 業界消息

(1) 米国 D. Van Nostrand Co., Inc. の社長 Edward M. Crane 氏が去る4月13日病気のため逝去された旨、昭和39（1964）年4月30日付、JBIA No. 182で通知。

(2) 米国 Henry M. Snyder & Co., Inc. の Norman J. Wright 氏が退職した旨、同年7月27日の理事会で報告された。なお同氏はハワイ在住で、後日 East-West Export Books (c/o The University Press of Hawaii) の Manager となり、昭和58（1983）年の定年退職までを勤めあげ、しばしば来日していた個性豊かな人である。アルバイトで俳優をやり、「地上より永遠に」という映画に出演したというのが自慢であった。

(3) 同日の理事会で、Feffer & Simons の日本代表信木氏が退職された旨報告され、新任の牛尾氏の紹介と挨拶があった。

(4) 7月31日付で、第三書房の藤井輝子社長より、同社の洋書担当砂田良子氏が退職し、後任として向山坦子（さきやまひろこ）氏が引き継ぐことになった旨の挨拶状が各社に送られた。

(5) 同年8月14日の理事会で、大阪の旭屋の社屋が土曜日に焼け、日曜日に建築にかかり、火曜日には営業を再開された旨の報告があり、一同その対処の迅速さに驚嘆した。

(6) 同年8月21日の協会懇談会に、英国 Pergamon Press Ltd. の Vice President, D. P. Raymond 氏が出席した。

(7) 同年11月11日の理事会で、英国 Pergamon Press の Mr. Robert Maxwell が、労働党より下院議員に当選した旨報告があった。

(8) 同日の理事会には、米国 Scott, Foresman & Co.

の Mr. Robert W. Cossum が出席、取引について討論が行われた。

(9) 同年12月10日付、JBIA No. 197で、次のお知らせがあった。

記

図書雑誌の販売及び出版業を致しておりました会員の株式会社東京堂は、営業を廃止致し、新たに販売部門として「株式会社 東京堂書店」、出版部門として「株式会社 東京堂出版」の2会社が創立され、12月1日より発足致しました。当協会員としては、「株式会社 東京堂書店代表者 大橋勇夫氏、東京都千代田区神保町1-17」が引き継がれることとなりました。（以上）

(10) M. Graham Brash & Son の引退した名物男 Mr. Graham Brash の体具合が悪くなったので、子息の Mr. Thomas, M. Brash が父を連れて香港に出かけ、三ヶ月ばかり滞在して様子を見た上で父を香港に置いてくるつもり。その間の日本での同社の仕事は、香港支店長の Mr. David Langlands が代理する旨、昭和40（1965）年3月10日の理事会で紹介があった。

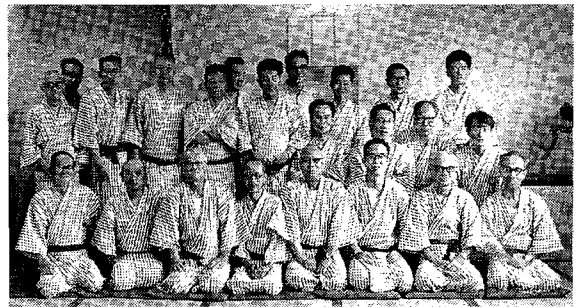
(11) 昭和40年3月末頃の、業界某大手の外国雑誌カタログ価格は、前払いで\$…450円、後払いで480円見当であった模様。

112.8 懇親旅行、新年会

恒例の理事会懇親旅行は、昭和39（1964）年4月9日から10日にかけて、千葉県犬吠崎の暁鷄館に一泊というスケジュールで行われた。

洋書輸入協会としての懇親旅行は、同年7月9日から10日にかけて、千葉県御宿に一泊ということで行われた。参加者23名で総費用は87,072円、1人当たり3,786円という質素なものであった。その折の写真添付の通り。

新年会は、昭和40（1965）年1月14日、午後6時より神田佐久間町の「ふるさと」支店で、一人当たり2,000円の予算で開催された。（続く）



於千葉県御宿

日本橋と出版文化〔2〕

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆出版文化を飾った日本橋

商売としての出版が始まったのは慶長年間(1596-1614)であたといわれ、その初期には京都や大阪が出版の中心であった。江戸ではいつごろから本屋(出版社)が発生したのか明確ではないが、寛文年代(1660年代)にはすでに始まっており、元禄のころには書物屋仲間(書籍商組合)が結成されていたことが明らかである。この時代の江戸の商は日本橋通油町(今の伝馬町)に集中していた。江戸で注目すべき本屋としてまず上げなければならないのは「須原屋」であるが、この本屋は万治元年(1658)に北島宗元が日本橋南(現日本橋1丁目辺)に「須原屋茂兵衛」という名称で創設したのが最初であった。江戸時代には板株が出版資本として絶対的な価値をもち、今でいう紙型と著作権と著作権を合わせ持ったばかりではなく、類似の出版さえも牽制でき、永久的特権であったという(弥吉光永『江戸時代の出版人』)。須原屋は「武鑑」(大名・旗本の名鑑)類の板株を多数集めて、京大阪江戸の3都で有数の書物問屋であった。須原屋ののれんを掲げた係属書店は多く、ほとんどが日本橋に店舗をもって目覚ましい発展を見せていた。分家のひとつであった須原屋市兵衛は室町2丁目に店を構えていたが、時代を先見するスケールの大きな人物だったようで、幕府の忌避に触れるかもしれない出版物を手掛けた。日本に蘭学の基礎を築いた『解体新書』はこの出版であったし、平賀源内や森島忠良、宇田川玄圃など蘭学者による先駆的な著作を次々に出版した。

須原屋と並んで大書籍商として江戸の出版文化を担った本屋に蔦屋重三郎があった。蔦重はこの時代に広く読まれた『吉原細見』を出版して発展し、山東京伝、歌麿や写楽などを育てた本屋であったが、これも後年日本橋に進出した。このように、日本橋は江戸において出版のメッカの観を呈した。

さて、弥吉光永『明治時代の出版と人』によると、明治14年に結成された「東京書林組合」に所属していた書店は全部で206店、このうち日本橋に店舗を構えていたのが59店と一番多かった。江戸時代に築かれた出版の町としての日本橋の伝統は、明治に入ってから変わら

受け継がれていたものであった。ちなみに、近くの京橋は27店、本屋の町として発展する神田は41店であった。しかも、日本橋に集まった出版社はただ数が多かったというばかりではなく、明治初期の出版文化の発展に大きな役割を担った重要な大書肆が店を構えていた。

こうした明治初期における日本橋界隈の大書店の様子を少し紹介することにしたい。まず日本橋の南からたどっていくと、橋のすぐ南の通1丁目に店をもって絵草紙屋を営んでいた大倉屋孫兵衛は、明治20年には島田豊編訳『附音挿図和訳英字彙』を刊行したが、この辞書は慶応義塾で教鞭を執っていたアーサー・ロイドの序文が入り、教育者の杉浦重剛と英語学者井上十吉が校閲したもので、明治20年代から30年代に広く使用された。大倉書店は、この外にも英語・ドイツ語・フランス語の辞書や国語辞典を刊行して、明治期に辞書出版社として重きをなした。その4〜5軒先には須原屋書店の大きな店舗、日本橋角の柳屋の隣には土蔵造り2階建の山城屋佐兵衛書店があった。この書店は加藤弘之『真政大意』(1870)や『国体新論』(1874)を刊行したが、これらの著作は加藤が天賦人權説に基づいて著したもので、社会進化論転向前の代表的な著作であった。その先3丁目には丸善、少し京橋に入るが南伝馬町に吉川弘文館の前身である古本屋の吉川文玉圃、農業書専門の有隣堂書店、院本翻刻専門の武蔵屋本の発行元叢書閣が店を構えていた。日本橋の北へ行くと、室町より本町界隈には三越の近くに諸官庁御用書肆木村源兵衛書店、瑞穂屋卯三郎書店、横山町には内田老鶴圃などが店舗を張っていた。

これらの書店・出版社には丸善の外にも洋書を扱っていた店があった。江戸橋際の四日市にあった和泉屋半兵衛は洋書の販売のみならず欧文活字による印刷も行って、瑞穂屋清水卯三郎も洋書を取り扱っていた。彼は幕末・明治初期に活躍した異彩で、薩英戦争への関与、パリ万博参加、石版印刷機や医療器械の輸入、西洋花火の研究、出版に進出してからは『六合雑誌』の刊行や『明六雑誌』に関係し、さらに歯科雑誌や洋書翻刻版を出版するなど日本近代化への貢献は大きく、彼の一生はまるでドラマの世界のように波乱に富んだものであった。



Harvard Business School

Management Programs

このマネジメント・プログラムは、マイケル・E・ポーター教授をはじめとするハーバード・ビジネススクールの当代一流の教授陣が提供するもので、既に米国では教育機関、企業のトップ・マネジメント等より絶大な支持を受けているものです。

ハーバード・ビジネススクール・マネジメント・プログラム

日本語版 新刊2タイトル 8月21日発売

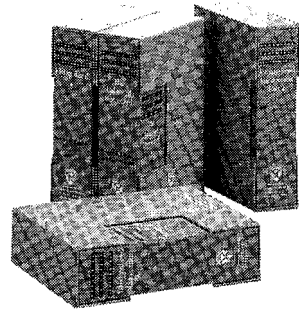
第5弾

現代こそビジネスの将来は管理評価に左右される

企業パフォーマンスの評価

- 1) 「闇雲に飛ぶ」: いかに従来の評価システムは誤らせたか
- 2) 「バランス・スコアカード」: 将来のパフォーマンスの管理
- 3) 「活動基準型経営 (Activity-Based Management=ABM)」
パート1: ABMで収益可能性を明らかにする
- 4) 「活動基準型経営」パート2: あなたの企業でABMを実践する

セット価 ¥360,000
各巻 ¥100,000



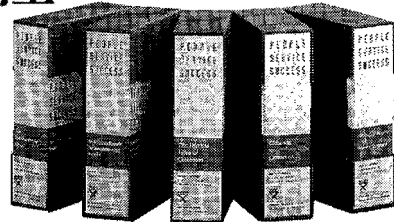
第6弾

あなたの会社の経営陣はサービスと利益の関連性を熟知しているだろうか?

成功企業への道程

- 1) サービスと利益との関係
- 2) 画期的なサービスの提供のために
- 3) 顧客の生涯価値
- 4) 顧客の声に耳を傾ける
- 5) サービスの再生が顧客を失望から救済する

セット価 ¥400,000
各巻 ¥100,000



○ビデオは、音声多重方式(主音声に日本語、副音声に英語)で録音されています。

○日本語版パッケージには、副次教材はいずれも英文/和文各1部ずつ付いております。

●お問い合わせは下記へ

GMS

ハーバード・ビジネススクール
マネジメント・プロダクションズ日本総代理店

株式会社 グローバルメディア・システムズ

〒105 東京都港区浜松町2丁目5番5号松井ビル

(営業本部) TEL.03-3433-4375

FAX.03-3437-1778

1995年7月 通巻第338号 洋書輸入協会
〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

編集者 神田 俊二

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所一藤本総合印刷株式会社